

## 第4回酒田市総合計画審議会文教部会会議録

日 時 平成19年5月18日(金) 午後1時30分～午後2時35分

会 場 酒田市情報プラザ 601会議室

### ◎出席者

#### ・部会長

佐藤 英治

#### ・委員

小松 隆二

大井よ志子

服部 正規

齋藤 義明

齋藤 龍彌

柴田 俊弥、

和田 明子

山中 俊

#### ・欠席委員

本間 清和

#### ・事務局職員

松本 恭博

五十嵐龍一

阿部 雅治

佐藤 伸

梅木 仁

兵藤 芳勝

小松原和夫

武田 政紀

齋藤 豊司

土井 一郎

松田 文夫

須貝 彰

齋藤 善和

菅原 信二

後藤 重明

阿部 勉

菊池 裕基

熊谷 智

大谷 謙治

前田 茂男

佐藤 瞳

### 協議日程

部会長あいさつ

#### 1. 開 会

#### 2. 協 議

(1) 酒田市総合計画第1次原案(施策の大綱)について

(2) 同(重点プロジェクト)について

(3) その他

3. その他

4. 閉 会

開会 午後13時30分

---

## 部会長あいさつ ・ 1. 開 会

○事務局（菅原信二） それではただ今より第4回酒田市総合計画文教部会を開催いたします。

それでは部会長より開会をお願いします。

○会長（佐藤英治） 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日は本間清和委員が欠席です。定足数に達しておりますので直ちに会議を開催いたします。

---

## 2. 協 議

○会長（佐藤英治） 今回は4月27日の審議会に示されました酒田市総合計画第1次原案（施策の大綱）について、皆さまからご意見を伺うということになっております。それでは早速次第にしたがいまして進めてまいりたいと思います。それでは事務局より酒田市総合計画第1次原案（施策の大綱）の特に文教部会に関係する箇所を中心に説明願います。

○事務局（阿部雅治）

**資料説明。 ー 省略 ー**

○部会長（佐藤英治） 早速ですが説明いただいたところについて質問とご意見をいただければと思います。

○委員（齋藤義明） 明日を担う心豊かな人づくり（学校教育）のところですが、個人的にはこのような中身が実現できれば素晴らしい酒田市が実現すると思うんですが、学校のことで個々に書かれていることは我々受け手からのことが多いのではないかと思います。学校の先生の実情はもっと厳しくなるのではないかと思います。そのようなところに、所轄もあるでしょうが、どのような手立てができるのかというようなものも加えることができないかというふうに思っています。具体的に申し上げますと、中学校のPTA会長をやらせていただいておりますが、小中学校では高学年になればなるほど先生方が非常に窮屈な思いをしているということです。職員の数を増やすことはできないかもしれませんが、例えば地域の方々

がもっと学校に入っていけるような方策など何かないか。今、地域の先生づくりとかやられているようですが、そういうところを学校教育の中身に加える部分がないのかなと思っているのですが。

○学校教育課長（梅木 仁） 10ページ、(2)小中学校教育の充実の①教育活動の充実にかかれた学校づくりの推進という部分があります。学校にいる子どもたちの教育については教師だけでは健やかな成長を達成することが難しい時代になってきているという認識は持っています。そこで特色ある学校のありようについて地域、保護者の方々に開きながら、子どもたちのよりよい成長のためには地域の方々、保護者の方々のご支援をいただいて共同で学校をつくっていくと。その体制構築のために各学校では今までになかった学校概要などを作って地域の方に事前にこんな形で1年間進めさせていただくといった説明や、さらには年度末に学校評価というシステムを導入して、1年の歩みについて地域の方々からご理解をいただきながら、次年度の構想についても意見を取り入れさせていただく、というような視点もあると思います。それから具体的に人的支援という部分では、発達障害のお子さんのために個別の補助員の配置、さらには複式学級の指導をより充実したものにするための学習指導員の配置、先生方の中々手の届かない部分については補助員・支援員等の配置しているところです。ただ、基本的には県費負担職員ですので、制度的なことを言えば市町村で学級担任をつける制度になっていないこともご理解いただければと思います。できる範囲で、子どもたちの成長に必要な部分で先生方の手の届かないところには、教育相談、スクールカウンセラーもそうなんですが、考えられる範囲の中で対応させてもらっていることをご理解願えればと思います。

○委員（小松隆二） 私も齋藤委員と同じような感想を持ちました。ただこういう全般的な計画ですからこれでしょうがないのかなあと思いつつ、あらゆる点に満遍なく触れるだけではなくて、できればこれからの具体化の過程で酒田の教育、文化の売り、重点はここなんだと具体的に分るようなことをぜひ進めていただきたいということです。そういう具体的な議論はこの場ではなくて別の場でしょうから、ぜひこういったことを受け止めて考えていただければと思います。無理かもしれませんが行政は今の時代、大過なく終るのではなくて、大過があってもいいからぜひ夢のあることを追うべきではないかというふうに考えております。例えば、前から言っていますが11ページ、県立高校の再編とか中央高校のこともまさに問題が出ないように書いてあるだけで、ではどういうふうに再編するのか、中央高校をどういうふうに充実するのかということまで踏み込まないとだめで、それをどこかの所できちん

とやって欲しいと思います。上の方に小中学校の一貫した教育の充実とあるのですが、中高一貫はないようです。山形は中高一貫が大変遅れていて実質取り組んでいないのと同じような状態なんです。全国の流れは中高一貫ですので、勉強6年間だと相当多様な新しい6年計画を私立高も都立高も立てています。そういったことに負けないようなことを採用するならばただ数合わせで、生徒が減ったから1つにするというのではなくて、どうせやるなら酒田発のすばらしい中高一貫をつくってみるといふくらいの取り組みがあつていいんじゃないかと思います。私も東京で中高一貫校をつくりまして、今からでは遅いと言われながら、遅くてもやらなくてはだめだといってやったら成功を収めつつあるんですけども。酒田は同じことは無理だということではなくて、山形県を引張り日本を引張るような中高一貫をつくれないうことは無いと思うんです。小中一貫もそうですが、どういう小中一貫にするのか。こういう総合的な問題の検討の場では無理だと思うので、個々の具体化に向けぜひご検討をいただければというふうに考えております。特色ある学校づくりの特色とはどういったことなのかということぜひ具体化していただくとありがたいと思います。勝手な要望ですけど。

○会長（佐藤英治） ありがとうございます。今日は具体的な論議というものには特に深入りしませんけれども、具体化する段階で小松委員の言葉を借りますと、いわゆる売りということ意識した形で今後考えていただければという部分ではないかと思います。他にございませんでしょうか。

○委員（服部正規） 小松委員と重なる部分もあるかも知れませんが、第1章の公益の心育むまちという部分では本当に酒田らしくて大変よいと思っっているんですが、ただ、内容を見た場合、「公益の心を育む」がどこにあてはまるのかということが分からない部分があります。その辺の説明をお願いできればと思います。第5節には載っていますが、その他の部分、公益の心という特色をもう少し生かせないのかなということを感じましたので、ここがその部分だよというのが分れば教えていただきたいんですが。

○会長（佐藤英治） 公益の心が具体的にどの辺の文言で示されているのかというところですが。

○学校教育課長 この質問については教育委員会にお示した時にも同じように、公益の心と具体的施策との連動性についてご指摘をいただいたところでした。ここには施策の箇条書的な取り出しをさせていただいており、中々見えにくいということで私たちもそれを受け取りながら見えるような形で表出しをしていかなければならないという思いを強くしているところです。ただ、今回出させていただいた中には、例えば、体験活動の充実では、当然、子どもたちに自然体験、さらには社会体験、伝統文化体験と様々な体験活動を通して学びの

実感のある子どもたちを育むと同様に、自分の生活する地域をこよなく愛する心を育むという、そういう体験活動の意義も含まれているところです。それぞれの部分には散りばめられているのですが、ご指摘がありますように公益と連動するような頭出しというようなところでは少しお時間を頂ければと思います。

○委員（服部正規） ありがとうございます。具体化すると段々出てくる部分もあるのかなと思います。それでぜひ言葉として入れていただきたいものがあります。公益という部分です。青年会議所でも青少年教育という部分で「思いやり」という運動をしております。そういった言葉を入れていただければ、公益性がより出てくるのかなということがありますので、もし入れていただけるのなら施策方針の部分とかに入れていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○会長（佐藤英治） ありがとうございます。他にございませんか。

○委員（小松隆二） 12ページですけれども、図書館の部分で、光丘文庫も特色を出されていると思うんですが、もう1つ入れていただければありがたいのは、公益大学の図書館は酒田市との連携の図書館ですので、市と大学あるいは小中学校図書館との連携ということも特徴だと思います。現実には公益大学の山形文庫と光丘文庫を入れると日本一の山形文庫かもしれないです。公益大学の山形文庫は山形大学や芸術工科大学にも負けないですので、そこに光丘文庫と連携したらどこにも負けないものになると思うので、大学と市の連携によるサービスということをごどこかに入れていてもいいのではないかと思います。市民の利用率もたぶん日本でも高い方だと思います。

○図書館長（武田政紀） 平成19年度にひらた図書センターと中央図書館でコンピュータシステムの統合を予定しております。その中で公益大メディアセンターの蔵書の目録検索がかけられます。ひらた図書センター、中央図書館、八幡分館、松山分館どこからでも、これは公益大メディアセンターの方にある、これは中央図書館の方に、これはひらた図書センターというように一度に出てくるように予定しております。そういった意味で内実的には連携というものが生み出されるのかなというふうに思っております。

○会長（佐藤英治） そうしますと形としては進んでいる、しかし、文言として載っていないという部分がありますので、小松委員のご指摘のようにここに盛り込まれればより素晴らしいものになると思いますのでご検討をお願いします。

○委員（齋藤龍彌） 皆さんと同じような話しになるかもしれませんが、私も齢80を超えまして、若い方たちの考え、価値観が違うということを申し上げておったのですが、この前の

読売新聞に出ていた記事に私の考えていたことと同じようなことが載っておりました。簡単に言うと個人主義と利己主義の違い、それで社会性を失っているという書き方なんです。それで前にも申し上げましたが、農業委員会の会報に非常にいい言葉が出ていたんですね。PTAで集まって給食を食べるんですが、「いただきます」という言葉をなぜ言わなければいけないのですかという父兄がいらっちゃったということなんです。これについては皆さん考えることがあると思うんですが、その方は「私は給食代を払ったんだから、いただきますを言う必要はない」という言い方でした。今、ある東北の大学が学生を欧米に留学させているそうですが、そこでロンドンで一緒にアパートに住んでいる外国人が日本人のその留学生を見て言っているんですが「一緒に暮らす私たちのことが目に入っていないかのようです」ということです。留学生は、私は部屋代を払っているのだから、他はかまわなくていいという考え方です。しかし、共同生活ということであり、自分がそこで生かされているということなどが書いてある。西欧の利己主義と個人主義、そして社会性といいますか、それを忘れた、義務を忘れたという書き方をしているんですね。ここでもありました公益の心、私はこれが教育関係で一番の売りだと思って、小松学長さんの話に感動しているところなんです。これがあって本間光丘さんの話もありますが、宗教観ということが日本で一番の課題ではないでしょうか。なぜこんなに人殺しなどの社会的問題が起きているのかなと、そのどこに淵源があるのかなと思っております。酒田では公益大学があり本間光丘さんがいらっちゃって、まずはじめにそういった問題を断ち切ることを教育をすることが酒田の売りだと思っております。そんなこと老婆心ながら申し上げて失礼だと思っておりましたけれども発言させていただきました。

○会長（佐藤英治） 全体に関わる大きなお話ではなかったかと思えます。その他ございませんか。

○委員（齋藤龍彌） それから前にも話しましたが、市議会報で前の教育長が学校の目的を、普通は勉強をするところなどと申し上げるんですが、人づくりをするところと言っておりました。そういうところを見ると教育委員会の心が分りますし、そこを酒田が全面的に出すことが大事と常々考えている一人ですので、合わせて申し上げさせていただきます。

○会長（佐藤英治） ありがとうございます。他ございませんか。私からも1つだけお伺いしますが、前にどなたか委員から、生徒を育てる、人材を育てる、人づくりということが具体的な形になっていった場合に一番大きなものは、その子どもたちを教える人の問題だということが出されたと思えます。この内容を見ますと教える側の問題というのがどこにも見られ

ないなと思いました。何らかの形で、例えば教職員の研修というような言葉もあると思いますが、教える側の部分が少しあればいいのかなと考えておりました。他にありませんでしたらこの部分については打ち切らせていただきたいと思います。続きまして重点プロジェクトにつきまして説明をいただき、その後にご意見をいただきたいと思います。

○事務局（阿部雅治）

**資料説明。 — 省略 —**

○会長（佐藤英治） 5つのプロジェクト一括してご意見ご質問をお受けしたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員（小松隆二） 56ページ、図書館の目標数値がありますが、希望としてはここに貸出冊数とありますが利用者数も出していただけるとありがたいと思います。市民がどのくらいの規模で利用しているのかということです。それだと他と比較しやすいと思います。また、54ページの学区改編の概要欄についてですが、教育の質についても加えていただければいいと思います。今は適正規模のことが書いてあるんですが、それに加えて学習条件、学習環境の充実とかそういった質の面も入れた方がいいのではないかと思います。

○図書館長 貸出冊数から申しますと、平成18年度の中央図書館分が40万冊です。ひらた図書センターが5万冊で、合計45万冊です。今、手元に資料がないんですが、貸出人数では11万人、入館者数が30万人です。実は貸出人数が若干減っております。なぜかというところと合併に際し規則改正を行っております、1人1回5冊としていたものを10冊までと拡大しています。例えば、17年11月の合併以前はご夫妻でおいでになって2人で10冊借りていたものが、1人で10冊まで借りられるということになりましたので、利用者が数字的には減になっているということです。

○会長（佐藤英治） 利用が減ったということではないということですね。分かりました。

○教育部長（五十嵐龍一） 今の図書館の貸出冊数とあわせて利用者数を2段書きなどさせていただきたいと思います。それから学区改編についてはほぼ全市について今、検討しております。ハード面もあるわけですが、それぞれの学校での教育活動がより充実した形になるようにしていきたいと思っています。その例として、生徒数、クラス数によって教員の数が決まるということもあります。複式学級もなるべく解消したいということでそれを補完する意味での支援員の配置等を行っているわけですが、そういう意味で、現在の教育の質を落とさない、なお伸ばしていこうということが学区改編の本質だと思っております。単に数合せではなくて教育環境、教育の質という意味で表現を少し加えさせていただきたいと思いま

す。

○会長（佐藤英治） 他ご意見ございませんでしょうか。

○委員（齋藤龍彌） 55ページの施策2、歴史と文化が織りなすひと・まちづくりですが、その中で、今までの伝統文化はまあいいや、時代に沿っていこうというという考え方で、大事なものが失われつつあるのではないかと思います。例えば、盆礼、正月礼とか、祭りもなくなっただけということもあります。酒田まつりは盛大だと思うんですが、そういうことを通じて日本人の文化、精神構造を高めていくことがこれからの酒田の人を育てていくことに非常に大事ではないかと思っています。もちろん時代が変わっていますので、昔のようにそのままでは時代遅れと言われることもあると思いますが、何百年も培われ続いたものにはそれだけの価値があり、その形をつくってきたと思います。文化活動を企画運営できる人材とかさかた歴史街道事業とは出ていますが、伝統的なものも大事だと思います。

○文化課長（齋藤 豊司） 確かにおっしゃるとおりだと思います。私どもとしては地域を活性化していくという部分がないと中々難しいなと思います。保存についても行政だけでは限界がありますので、地域、人を育てていく。その中で保存した部分を継承していくという人づくりの部分的大事だと思います。それから地域のお互いの連携という部分では、それぞれが苦勞しております。苦勞しながらお互い悩みを出し補完しながら育てていくという部分は個々の施策の中に盛り込んでいきたいと思ひますし、配慮していきたいと思ひます。

○会長（佐藤英治） よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。

○委員（柴田俊弥） 55ページの生涯スポーツについても日々の研鑽、積み重ねの中で運動の習慣づけをすることで、目標数値の5年間で3%ずつ拡大していくというものにつながると思ひます。市民ニーズも色々変わってきていると思ひますが、進めるときには今まではこうだ、教育委員会で考えるのはこうだではなくて、市民意見を多く取り入れる形でないと目標達成は難しいと思ひますので、実施の際はきめ細かくということをお願いします。

○体育課長（兵藤芳勝） そのとおりだと思います。毎年の予算編成の前にでもざくばらんな意見交換などの場を設けて、施策に反映させていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○会長（佐藤英治） よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。特にないようですので、その他としまして、人口フレーム、土地利用形態、計画推進のために、あるいは、その他全体的に何かありましたらご意見等いただければと思ひます。特になければ、今回の第1次原案は事務局の苦勞で大変よくまとめていただいたと思ひますし、もちろんこれから話

めていかなければならない、具体的な施策事業という部分になった場合には、これまで出された様々な意見を集約しながら達成していただきたいという願いはありますけれども、原案についてはみなさんのご意見を含めてこういう形でよろしいのではないかということと思います。今日出されましたご意見を教育委員会、また所管の課の方でお考えいただきまして、よりよいものにまとめていただければ大変ありがたいと思います。

○企画調整課長（阿部雅治） （今後のスケジュールについて、省略）

○会長（佐藤英治） これで第4回の文教部会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会 午後2時35分